

「落花生」生育情報（第2報）

～ 基本技術を励行して収量増加！ ～

令和7年8月20日
千葉県農林水産部
生産振興課

※本資料は、落花生生産者へ落花生の生育情報を提供するものです。
調査時点での生育状況をまとめたものであり、本年の収量を保証するものではありません。

1 生育状況

アメダス（佐倉）では、7月から8月上旬にかけて、平均気温、日照時間ともに平年を上回って推移しました。6月下旬から7月上旬及び7月下旬には降雨がほとんどなく、ほ場が干ばつ状態になりました。

5月から続く高温・多照により、平年と比較して開花期が早く、地上部乾物重も大きくなっていますが、8月8日時点の作況調査ほ及び落花生研究室では、特に5月20日頃に播種したほ場で無かん水の場合には、空さやの発生や子実の充実不足の恐れがあります。

表1 作況調査成績（8月8日調査）

品 種 名	年次	は種日	開花期	開花 日数 (日)	地上部 生体重 (g/m ²)	地上部 乾物重 (g/m ²)	さや数 (個/m ²)	生さや重 (g/m ²)	さや 乾物重 (g/m ²)	最長 分枝長 (cm)
千葉半立	本年	5/31	7/4	34	2281	381	69	278	39	37
	平年	5/30	7/8	39	2280	381	91	330	45	39
				(-5)	(100%)	(100%)	(75%)	(84%)	(85%)	(94%)
ナカテユタカ	本年	5/19	6/24	36	2519	505	210	766	198	38
	平年	5/20	6/29	40	1845	326	165	548	120	34
				(-4)	(137%)	(155%)	(127%)	(140%)	(165%)	(112%)
Qなつつ	本年	6/5	7/7	32	2426	461	181	616	102	45
	平年	5/30	7/7	38	2085	368	150	540	78	44
				(-6)	(116%)	(125%)	(120%)	(114%)	(131%)	(102%)
おおまさりネオ	本年	5/14	6/24	41	2952	577	124	569	76	45
	平年	5/23	7/2	40	2612	513	144	598	85	45
				(+1)	(113%)	(112%)	(86%)	(95%)	(89%)	(101%)

* 本年値は、各調査地点の平均値。「千葉半立」は千葉・印旛・香取・山武地区、「ナカテユタカ」は千葉・海匝・長生地区、「Qなつつ」は印旛・香取・長生地区、「おおまさりネオ」は千葉・印旛・君津地区。

* 平年値は、ほ場変更等がない限りは過去7年間（「千葉半立」、「ナカテユタカ」、「Qなつつ」）の調査データから最大・最小を除く平均。ただし、「おおまさりネオ」は過去4年間の平均。

* カッコ内は平年値に対する差、又は比。ラウンド処理をした値。

表2 落花生研究室（八街市）の作況（本年の値、8月8日調査）

は種日	品 種 名	開花期	地上部 生体重 (g/m ²)	地上部 乾物重 (g/m ²)	さや数 (個/m ²)	生さや重 (g/m ²)	さや 乾物重 (g/m ²)	最長 分枝長 (cm)
5月20日 (標播)	千葉半立	6/26 (-4)	3,380 (127%)	646 (121%)	154 (105%)	408 (94%)	52 (86%)	48 (108%)
	ナカテユタカ	6/25 (-3)	2,772 (142%)	526 (138%)	267 (126%)	710 (111%)	98 (90%)	45 (124%)
	Qなつつ	6/26 (-3)	2,890 (149%)	541 (142%)	258 (123%)	685 (112%)	96 (96%)	56 (124%)
	おおまさりネオ	6/26 (-2)	3,200 (140%)	585 (127%)	124 (75%)	232 (49%)	33 (46%)	47 (117%)
6月9日 (晩播)	千葉半立	7/7 (-5)	3,216 (150%)	515 (130%)	100 (192%)	327 (174%)	36 (161%)	50 (128%)
	ナカテユタカ	7/5 (-5)	2,598 (150%)	454 (137%)	170 (148%)	602 (151%)	86 (163%)	47 (136%)
	Qなつつ	7/6 (-6)	2,037 (123%)	364 (113%)	159 (146%)	477 (124%)	69 (134%)	47 (121%)
	おおまさりネオ	7/6 (-4)	3,294 (157%)	492 (123%)	94 (139%)	241 (124%)	31 (113%)	50 (137%)

* 栽植密度は5,128株/10a

* 無かん水条件

* カッコ内は、令和2年～令和6年の平均値に対する差、又は比

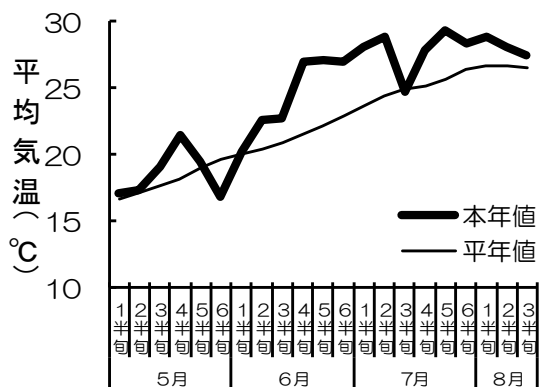


図1 気温の推移（アメダス、佐倉）

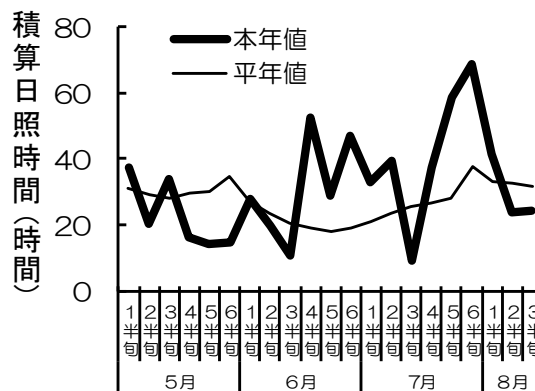


図2 日照時間の推移（アメダス、佐倉）

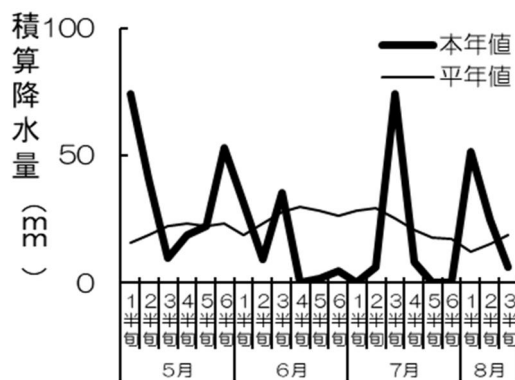


図3 降水量の推移（アメダス、佐倉）

表3 アメダス地点別降水量（mm）

地点	7月			8月	合計
	上旬	中旬	下旬	上旬	
千葉	30	82	0	70	182
茂原	4	76	0	51	130
牛久	12	105	0	66	182
銚子	6	120	0	37	163
館山	1	52	0	29	81
大多喜	0	109	1	101	210
佐倉	6	82	0	76	164
木更津	7	92	0	47	145
香取	38	73	0	66	177
横芝光	4	67	0	46	117

2 これからの管理のポイント

(1) 病害虫防除

1) 発生状況

7月の高温乾燥の影響で茎腐病の発生が見られました。また、8月に入って降雨があり、白絹病の発生がやや多くなっています。

2) 今後の対策について

降雨やかん水による高温・多湿での白絹病の発生が懸念されます。薬剤散布だけでは十分な効果が望めない場合は、罹病株を株元の土ごと除去し、被害の拡大を防止しましょう。

薬剤の使用に当たっては、収穫前使用日数に注意しましょう。薬剤散布は、農薬のラベルに記載された使用基準に従い行ってください。

表4 防除薬剤

病害虫名	適用薬剤名	希釈倍数等	使用時期／回数
ハスモンヨトウ	トレボン乳剤	1,000倍	収穫14日前まで／2回
褐斑病・黒渋病	トップジンM水和剤	1,500～2,000倍	収穫7日前まで／4回
	ベンレート水和剤	2,000～3,000倍	収穫7日前まで／4回
白絹病	アフエットフロアブル	2,000倍	収穫前日まで／3回



褐斑病



白絹病

(2) 台風対策

栽培期間中に台風が接近した場合は、以下の対策をしましょう。

ア 栽培中及び乾燥中ともに冠水しないように排水路を整備する。

イ ほ場が冠水した場合は、莢の腐敗を防ぐために速やかに排水する。

ウ 台風後に病害が発生しやすいので、よく観察し、必要に応じて表4を参考に殺菌剤を散布する。

(3)「試し掘り」で適期収穫

落花生の収穫期の目安は、下表のとおりです。必ず試し掘りをして、収穫適期を逃さないようにしましょう。また、砂地のほ場では地温が高くなりやすく、収穫時期が早まる傾向にあるので、早めに試し掘りをしてください。

掘り遅れた場合、「ナカテユタカ」は食味が低下し、「Qなつつ」は落ち実が発生しやすくなるので、特に注意が必要です。

表5 開花期からの収穫期の目安

千葉半立	ナカテユタカ	Qなつつ	おおまさりネオ
95日後	80日後	80日後	85日後 (ゆで豆用)

表6 落花生研究室（八街市・マルチ栽培）での収穫期目安

	は種日	開花期	収穫期目安
千葉半立	5月10日 ^{*2}	6月21日	9月24日
	5月20日 ^{*1}	6月26日	9月29日
	5月30日 ^{*2}	7月1日	10月4日
	6月9日 ^{*1}	7月7日	10月10日
	6月20日 ^{*2}	7月15日	10月18日
ナカテユタカ	5月20日 ^{*1}	6月25日	9月13日
	6月9日 ^{*1}	7月5日	9月23日
Qなつつ	5月20日 ^{*1}	6月26日	9月14日
	6月9日 ^{*1}	7月6日	9月24日
おおまさりネオ	5月10日 ^{*2}	6月20日	9月13日
	5月20日 ^{*1}	6月26日	9月19日
	5月30日 ^{*2}	6月30日	9月23日
	6月9日 ^{*1}	7月6日	9月29日
	6月20日 ^{*2}	7月14日	10月7日

*1：落花生研究室の作況調査ほ場における調査結果

*2：令和5年度試験研究成果普及情報「気象データを活用した落花生の開花期予測モデルの開発」を活用し、アメダス佐倉の日平均気温を基に各は種日の開花期を予測して算出した

収穫適期判断法

「ナカテユタカ」及び「Qなつつ」は、さやの裏の色で収穫適期が判断できます。

＜方 法＞

- ①ほ場の中で生育が中庸な4株を掘り、それぞれの株もとのさやを5つとり、さやの裏の色を見ます。
- ②合計20個のさやのうち、その半数以上（写真＋）の色が淡褐色（写真＋）以上になり、黒褐色（写真＋＋＋）のさやがひとつでも見られたときが掘取りの適期です。
- ③開花期から予想される適期の7日前から、2、3日おきに試し掘りをして判定します。

